

Career Power

The 20th Library Fair & Forum Document

第 20 回図書館総合展
キャリアパワー主催フォーラム記録

2018 年 10 月 31 日 パシフィコ横浜にて開催

「グローバル人材育成に大学図書館が担う役割」
～24 時間 365 日開館、中嶋記念図書館が目指すもの～

【講師】 加藤 信哉 （公立大学法人国際教養大学 特任教授・図書館長）

【進行】 木村 麻美子 （株式会社キャリアパワー 取締役執行役員本部長）

【キャリアパワー：木村】

それでは定刻となりましたので、ただいまから第 20 回図書館総合展、キャリアパワー主催のフォーラムを開催させていただきます。

本日は御多忙の中、全国から多数の図書館関係者の皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただきます、私、株式会社キャリアパワー事業本部の木村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私どもキャリアパワーは、京都に本社をおく総合人材サービスの企業です。なかでも、この図書館という業界、大学・教育機関という業界にご縁をいただきまして、現在おかげさまで多くの大学様とお取引をさせていただき、全国の大学図書館で、図書館運営のお手伝いをさせていただいております。

さて、本日のフォーラムテーマは、「グローバル人材の育成に大学図書館が担う役割

～24 時間 365 日開館、中嶋記念図書館が目指すもの～」とさせていただきます。

大学におけるミッションのひとつとして、「グローバル人材の育成」ということが盛んにいわれるようになってきています。平成 26 年には、文部科学省からも、スーパーグローバル大学創生支援というものもスタートし、国家をあげて、大学でグローバル人材を育成していくんだ、そういう方向にあるのかな、と思っています。

実際、さまざまなテクノロジーの進化や情報技術の発展に伴い、国境の壁というのは非常に低いものになっているように思います。スマートフォンひとつで、世界中と一瞬にして繋がれる時代です。これから社会に出て活躍する学生を育成するためには、このグローバルという視点は欠かせないものなのだと感じます。

私たちはこれまで、この図書館総合展のフォーラムにおいて、大学図書館に求められる役割や機能について、さまざまな視点から、御講演をいただいて参りました。その中で感じてきたことは、資料の収集と提供という従来の図書館機能の枠を超えて、より学生の学びに寄り添うことが、大学図書館にとっては必要不可欠になってきているのではないか、ということです。

そういう点では、今後ますます広がっていくであろう、グローバル人材の育成という観点においても、大学図書館としてその大学のミッション、学生の学びに寄り添えるのではないかと、そんなふうに考えて、今回のフォーラムを企画し、加藤館長先生にご相談させていただいた、という次第です。

私たちが秋田の国際教養大学をはじめて訪問させて頂いたのは、2013 年の年末でした。すごい公立大学がある、というのを聞き気になっていたところ、ご縁があって図書館を見学させていただくことになったのです。非常にうつ

くしい雪景色の中、映画にでてくるような円形状の美しい図書館に、ただただ感嘆した、というのが当時の率直な感想です。それから5年がたち、このようなフォーラムを開催させて頂けることを、非常にうれしく思っています。

すでに御存知のことと存じますが、国際教養大学は、すべて英語の少人数授業、1年間の海外留学など、非常に特色のある教育プログラムで、全国から注目を集める大学です。グローバルリーダーを育成する、というその教育の成果は国内外の企業からも評価され、卒業生は多方面で活躍されています。

そしてまた大学のシンボルともいえる中嶋記念図書館も、その建築の美しさもさることながら、24時間365日開館の眠らない図書館として、全国から注目を集め、見学者や視察の絶えない施設となっています。

本日は講師の先生として、国際教養大学 図書館長の加藤信哉様をお迎えし、中嶋記念図書館がどのようにして、グローバルリーダーの育成と言う国際教養大学のミッションを支えているのか、中嶋記念図書館が目指す図書館像とはどのようなものか、また大学図書館に求められる役割が多様化するなかで、これからの大学図書館はどのような役割を果たしていくべきなのか、加藤館長先生の豊富な御経験をもとに、お話いただく予定をしております。本日のフォーラムが、ご参加いただきました皆様にとって、すこしでもお役に立てることがあれば、と願っております。

それでは改めて、本日御講演いただきます講師の先生をご紹介します。

公立大学法人国際教養大学 特任教授 図書館長 加藤信哉様でいらっしゃいます。

加藤先生は、秋田県秋田市ご出身で、図書館短期大学 図書館情報学部 図書館学科を御卒業後、筑波大学、秋田大学、図書館情報大学、東京大学、名古屋大学など、国立大学図書館で長くご勤務されてこられました。名古屋大学附属図書館部長、筑波大学附属図書館副館長などを歴任され、2016年より現職でいらっしゃいます。

それでは加藤館長先生、どうぞよろしくお願いいたします。

【国際教養大学図書館長：加藤信哉 講演】

ただ今ご紹介いただきました国際教養大学特任教授・図書館長の加藤です。

左下のロゴは国際教養大学のシンボルマークで、グローバルな国際性を表した緑の地球から、未来へのびる若杉の姿を秋田の「a」で表現しています。若杉の姿は「人」の文字をイメージし、世界に開かれたこの大学から育ち飛躍する、地域社会や国際社会に貢献する若々しい人材を表しています。

これから75分ほど「グローバル人材育成に大学図書館が担う役割」という題でお話します。



改めて簡単に自己紹介をします。秋田県秋田市の出身です。8つの国立大学の図書館に事務職員として40年勤務しました。2016年4月

から国際教養大学に図書館長（特任教授）として勤務しています。職務は図書館の運営，社会貢献、承認された研究の三つです。授業は持っていません。

共編，共著ですが，2012 年に勁草書房から「ラーニング・コモンズ―大学図書館の新しいかたち」を 2014 年に勉誠出版から「電子書籍と電子ジャーナル」を出版しました。

自己紹介：著書



今日は、「国際教養大学の特徴・教育方針」「中嶋記念図書館の特徴」「中嶋記念図書館が目指す図書館、中嶋記念図書館のこれから」「これからの大学図書館に求められる役割」の順でお話します。お話する内容が「グローバル人材育成に大学図書館が担う役割」について幾分なりともご参考になれば幸いです。

第 1 部は「国際教養大学の特徴・教育方針」です。

初めに国際教養大学の概要について説明します。本学は他の大学と異なるユニークな特徴を持っており、それが中嶋記念図書館の運営に強く反映されているからです。

国際教養大学はどこにあるかご存じでしょうか。この図はお手元にお配りした国際教養大学の「学部案内」の裏表紙のデータを流用したものです。国際教養大学は秋田県秋田市の郊外

にあります。東京からですと、空路で秋田空港まで 60 分、秋田空港からタクシーで 10 分のところです。

これはキャンパスとその周辺の写真です。ご覧になっておわかりのように、大学の近くに秋田空港と秋田県立運動公園しかありません。非常に自然に恵まれたところですが、周りに民家や商業施設はありません。

キャンパスの全景



キャンパスの全景です。右側の半円形の建物が中嶋記念図書館です。

キャンパスの風景写真を紹介します。

事務局棟から見たキャンパス風景です。林で隠れていますが、左奥に図書館があります。

キャンパスの風景（１）



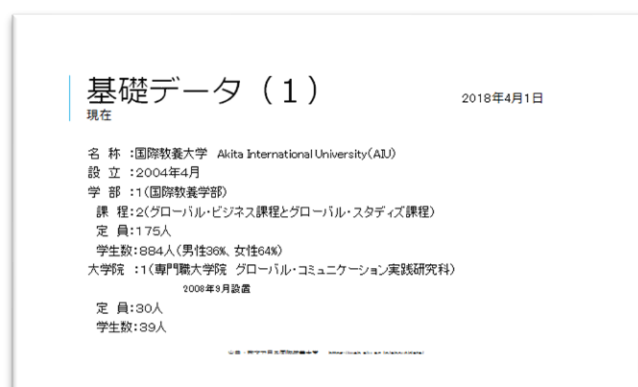
緑が豊かなキャンパスであることがお分かりいただけると思います。

次は大学の基礎データです。

国際教養大学、Akita International University (AIU) は 2004 年 4 月に設立された最初の公立大学法人です。学部は国際教養学部 1 学部

でグローバル・ビジネス課程とグローバル・スタディーズ課程（東アジア研究分野、北米研究分野、トランスナショナル研究分野）があり、1学年の定員は175名です。学部学生数は884人です。

専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科（英語教育実践領域、日本語教育実践領域、発信実践領域）が2008年9月に設置されました。1学年の定員は30人で学生数は39人です。



後で説明しますが、国際教養大学では在学中に1年間の留学が義務付けられていますので、留学（派遣と受入）の提携大学が、現在世界49国に190大学あります。内訳はヨーロッパ71(37%)、アフリカ3、アジア41(22%)、オセアニア13、北米59(31%)、南米3となっています。受入交換留学生は153人、派遣留学生は187人です。3年次に当る学生はほとんど留学生です。専任教員は73人（外国人教員38人、52.8%）です。職員数は83名（常勤54、嘱託10、派遣18、非常勤1）です。

国際教養大学が学生教職員を合わせて1,000人を少し超える小規模で国際色豊かな、コミュニティカレッジであることがお分かりになると思います。

さて、国際教養大学のミッション（使命）とは何でしょうか。

大学（学部）のミッションステートメントを見ると「グローバル社会におけるリーダーを育成すること」が使命として掲げられています。教育を重視する大学です。また「国際教養教育」が教学理念となっていますが、その具体的内容は「世界の広範な事象に関する幅広い知識と深い理解、物事の本質を見抜く洞察力や思考力、これらの上に築かれたグローバルな視野とともに、英語をはじめとする外国語の卓越したコミュニケーション能力を涵養する。」となっています。これは、やや抽象的な表現でわかりにくいかもしれません。そのため「ディプロマポリシー」の中にある「教育目標」を見ることにしましょう。



8つの教育目標が掲げられています。「国際教養教育」と「教育目標」を対比すると、最初が「英語を始めとする外国語の卓越したコミュニケーション能力」、次の3つが「世界の広範な事象に関する幅広い知識と理解」、5つ目から7つ目までが「物事の本質を見抜く洞察力や思考力」に対応し、最後の項目はどちらかというと、ミッションステートメントの最後の部分に関わるように思われます。

それでは6つの大学の制度や特徴について述べます。